

教員経歴調書

履歴書							
フリガナ	マスモ セイジ	性別	男	生年月日（年齢）	昭和42年12月1日（満57歳）		
氏名	増茂 誠二						
国籍	日本			現住所	千葉県市原市大原1826-15		
学歴							
年月	事項						
S61年3月	神奈川県立愛川高等学校卒業						
S61年10月	神奈川県消防学校入学 S62年3月卒業						
H13年4月	(財) 救急救命東京研修所入所 同年10月卒業 (救急救命士国家資格取得)						
H19年4月	国土館大学大学院スポーツシステム研究科スポーツシステム専攻入学 H20年3月卒業 修士取得 (救急救命学)						
H21年4月	千葉大学大学院 医学薬学府 環境健康科学専攻 医学博士課程入学 H29年6月単位取得満期退学						
R7年4月	千葉大学大学院人文公共学府 公共社会科学専攻博士前期課程入学 (公共政策研究)						
職歴							
年月	事項						
S61年4月	厚木市消防本部入職						
H18年3月	同消防本部退職 (主査 消防司令補 救急副小隊長)						
H18年4月	厚生労働省救急救命士指定養成校 国際医療福祉専門学校救急救命学科長就任						
H24年4月	同校副校長 兼救急救命学科長就任						
H26年4月	同校副校長 兼理事就任						
H27年3月	同校退職 同校顧問 非常勤講師就任						
H27年6月	市原市議会議員初当選 市原市地域医療協議会委員就任						
H31年6月	市原市議会議員二期目当選 教育民生常任委員長就任 自民党市原支部政調会長就任						
R3年3月	学校法人 国際医療福祉専門学校理事長補佐就任						
R3年8月	市原市地域保健医療協議会副会長就任						
R5年6月	市原市議会議員三期目当選 総務常任委員長就任 調査特別委員就任						
兼任							
H19年	順天堂大学医学部付属浦安病院救命救急センターER 勤務						
H24年	千葉市医師会・歯科医師会・薬剤師会 BLS 担当非常勤講師						
H26年	杏林大学保健学部非常勤講師						
H26年	全国救急救命士教育施設協議会副代表理事就任						
H28年	東京電力福島原子力発電所内救急処置室勤務 株式会社日本SI研究所 顧問就任 (救命ドローン)						
R2年	その他 社会的職歴 市原市剣道連盟顧問 (剣道教士七段)						
R3年	千葉県パワーリフティング協会会長						
R3年	一般社団法人 日本救急救命士会設立発起人						
R4年	国土館大学 防災・救助救急総合研究所嘱託研究員就任						

2025年度 法政大学大学院（様式3）

R5年	市原AED救命会設立発起人 新しい祭り ドラゴン屋台横丁開催発起人		
学会及び社会における活動等			
現在所属している学会	日本救急医学会 日本臨床救急医学会 日本救護救急学会		
年月	事項		
H18年	東映 映画アンフェア 医療指導 千葉市・市原市における小中学校に対する「命の教育」の普及に従事。 東京マラソンを始め千葉県内外のマラソン大会救護統括に従事。救急救命士学生による救助活動により2名を蘇生させる（神宮外苑マラソン、千葉マリンマラソン）		
H23年	一般社団法人 全国救急救命士養成施設協議会理事 BLS 普及啓発委員長就任		
H25年	全国救急救命士学生技術選手権大会 実行委員長（フクダ電子アリーナ）		
H27年	市原市内三次救急医療の整備、救命救急センター整備に尽力する。（市原市議会にて） 高齢化の救命教育に携わる。地域救命団体（高滝救友会を設立に寄与） 市原市内にAED普及啓発活動及び市民向け「緊急対応マニュアル」の作成をする		
H28年	一般社団法人 全国救急救命士養成施設協議会副代表理事就任		
H30年	2020 東京オリンピック・パラリンピック救護従事者認定指導者		
H31年	市原市議会にてドクターカーシステムを提言 教育民生常任委員会にて		
R1年	房総半島沖台風被害にて避難所救護者として活動（辰巳台公民館）		
R2年	市内幼稚園・保育園、高齢者施設において防災講師として活動（24施設）		
R2年	2020 東京オリンピック・パラリンピック救護者としてテコンドー競技に従事する		
R3年	新型コロナウィルス感染症ワクチン接種大型会場にて副反応経過観察員として従事		
R4年	チャリティーゴルフコンペを活用し屋外AEDを市内6カ所設置する（発起人）		
R5年	地域活性化を目的に「ドラゴン屋台横丁」を開催1万人の集客を実現（発起人）		
R5年	衆議院「救急救命士を支援する議連」会長に松野博一代議士を指名。（法改正に尽力）		
R6年	レスキューガイド（特許取得）の次世代型研究に山形大学医学部と共同研究に入る		
R6年	地域衰退化に伴うドラゴン屋台横丁開催により、2万人の集客を実現する		
R7年	第3回ドラゴン屋台横丁開催に向け、実行委員会を設置 本格的な動きに入る		
賞 罰			
年月	事項		
平成13年	賞 神奈川県消防職員殉職者慰靈祭奉納剣道大会優勝 神奈川県知事 罰 なし		
現在の歴歴の状況			
勤務先	職名	学部等又は所属部局の名称	勤務状況
国際医療福祉専門学校	理事長補佐	救急救命学科	学園全体の統括業務
市原市議会	市原市議会議員		市議会対応 政務活動
上記のとおり相違ありません。			
令和7年1月17日			
氏名 増茂 誠二 印			

別記様式第4号（その2）

教育研究業績	
令和7年 1月 17日	
氏名 増茂 誠二 印	
研究分野	研究内容のキーワード
救急救命分野	救急救命士学生に対する教育論
教育上の能力に関する事項	

2025年度 法政大学大学院（様式3）

事 項	年月日	概 要		
1 教育方法の実践例 ICTを活用した救急救命教育の実践	平成26年	救急現場のリアリティーを最大限に伝えるため、動画や画像を用いた講義を実現した。		
2 作成した教科書、教材 ドラマでわかるDVD 君も持てる「救命の手」一次救命処置！	平成28年	厚生労働省厚生労働省科学研究基金 中学校保健体育教材 制作 千葉大学教育学部付属中学校 高柳 佐土美 監修 増茂誠二		
3 水上におけるバックボード救出法を確立する	平成28年	国際医療福祉専門学校 救急救命学科による研究指導		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 救急救命士教育大会における発表 「教員の質の向上について」	平成28年	救急救命士養成機関における教員の質の向上について講義する。リアリティの強調が学生の教育効果に著しく影響する。		
5 市原高滝湖マラソン大会の救護体制の確立	平成28年	ドローンによる上空からの監視体制をとAED搬送を国内で初めて実施する		
職務上の実績に関する事項				
事 項	年 月 日	概 要		
1 資格、免許 救急救命士 救急救命学修士	平成13年11月 平成20年3月	第20677号 国士館大学大学院スポーツシステム研究科スポーツシステム専攻 第07MD107号		
2 特許等 第7稿レスキューボイス 特許第6836865号	平成28年7月	特許願P16-4 A61H 31/00 100169188弁理士 寺岡秀幸		
3 実績の経験を有する者についての特記事項 一般社団法人 全国救急救命士養成施設協議会 BLS普及啓発委員長 一般社団法人 全国救急救命士養成施設協議会 副代表理事に就任	平成23年4月 平成28年4月	全国の救急救命士学生に対し地域の救急蘇生率向上のための普及促進させる救急救命士法44条2項の変更に伴う要望書を前文部科学大臣松野博一氏に提出。厚生労働省医政局地域医療計画課長に要望（同席：田中秀治医学博士）		
書籍発行 「人を守り自分を守る 緊急事態対応マニュアル」	令和1年4月	ケガや病気の緊急対処法を分かりやすく解説 発行元 晴れ書房		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
e-Word 貫きたい志 救命道	単著	平成26年 vol27 No7 July	EmergencyCare メディア出版	20年の消防経験から救急救命士の役割や将来の救急救命士像を解く。暴力団抗争による負傷者の蘇生や、救急救命士が現場活動の中で特に必要な知識や技術、解剖学の重要性などを解く。

2025年度 法政大学大学院（様式3）

救命教育の ICT 活用と人間教育	単著	平成 27 年 vol172 Novembar	J レスキュー イカロス出版	専門学校だからこそできる人間教育。ICT 技術がリアル感を共有。救急救命士養成校において国内初の ICT 教育を実現した。ICT 教育が生み出すリアリティーが今後救急救命士教育に多いに活きる事を解く。研究要旨: 平成 18-20 年度の厚生労働科学研究費補助金「循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業」「自動体外式除細動器 AED を用いた心疾患の救命率向上のための体制構築に関する研究」(代表研究者: 丸川征四郎) の「小児心肺停止例への AED 普及にかかる研究」の継続として、「小児心停止救命率向上のための AED を含めた包括的研究」を行ってきた。今年度研究としては、平成 21-22 年度の各種研究課題の結果を継承しつつ、殊に社会的に重要な以下 5 課題を発展的に研究することとした。
小児心停止救命率向上に伴う AED を含めた包括研究 	共著	平成 24 年	平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究	課題 1: 小児院内心停止の疫学基盤と介入研究 課題 2: 小児に対する胸骨圧迫の強さと心肺蘇生の品質モニタリングに関する研究 課題 3: 自動体外式除細動器(AED)の乳児への適応拡大に関する研究 課題 4: 病院前救護における小児院外心停止症例に対する除細動に関する研究 課題 5: 学童の心臓性突然死の実態、病因解明とその予防、治療指針作成に關わる研究
ドクターカー整備に尽力 				小児院内心停止の疫学基盤と介入研究においては、登録 Web 画面改良
学生との市内の救護活動に尽力 				

 <p>市内各地に屋外 A E D を整備</p>			<p>によりデータ欠損が減少し、良質なデータで海外と比較することが可能となり、国内の現状もより正確に把握できた。小児に対する胸骨圧迫の強さと心肺蘇生の品質モニタリングに関する研究では、小児心肺蘇生における胸骨圧迫の新しい指標として新たな絶対値指標を提唱し、ガイドライン2010作成過程において国際的貢献を果たした。これらの目標値に対して実際の圧迫の深さをモニタリングすることが必須であると考えられ、それを可能とする小児用各種器械開発に結びつける研究の端緒とした。AEDの乳児への適応拡大に関する研究にあっては、検証基盤としての小児心電図ライブラリが作成され、様々な機種の小児心電図波形解析能力検証ができるようになり、わが国への安全なAED小児適応の拡大に寄与する基盤整備に寄与した。今後被験者数の設定要件を満たすためには心室頻拍、上室頻拍の症例を増やす必要があります、全国主要施設と協力してライブラリを完成させる必要がある。病院前救護における小児院外心停止症例に対する除細動に関する研究では、ガイドラインで小児へのAED使用適応範囲が拡大したものの、小児に対する環境は不十分であり、早急に整備が必要であることが分かった。企業に対しわが国に即した製品開発を促すのみなら</p>
 <p>緊急対応マニュアル執筆 晴れ書房</p>			
 <p>ドラマ東京 M E R に出演 (動く救命処置室)</p>			
 <p>千葉県歯科学会にて歯科治療中の心肺停止について歯科医師に講義する</p>			

 <p>能登半島地震にて宇野 理事長と共に生活用水確保のため、現地の井戸掘削に尽力する。</p>		
 <p>市民普及用救命機器の開発により特許取得</p>	<p>共著</p> <p>平成 27 年</p>	<p>平成27年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(奨励研究)</p>
 <p>東京女子体育大学にて救命法の指導方法にて講義する</p>	<p>共著</p> <p>平成 26 年</p> <p>共著</p> <p>平成 26 年</p>	<p>月刊「心とからだの健康」健学社第 24 卷第 10 号</p> <p>日本養護教諭教育学会</p>

		<p>第22回日本養護教諭 教育学会学術集会抄 録 p246-247</p>	
<p>救急救命士教育に献体を使っての実習を国内で初めて取り入れる</p>			
		<p>県立木更津高校にて救命講習を定期的に行う</p>	
		<p>市原市内全域で防災講義を行う。</p>	

2025年度 法政大学大学院（様式3）

小中学校養護教諭のBLS技能向上に向けた指導資料などの開発と研修のための基礎研究				
ビジュアル教材「救急救命は最初の対応がとても大切」「急に人が倒れた！どうしたんだろう」				
ワークショップ 「救急救命指導者メソッド」				

著書・論文等

1, 緊急事態マニュアル：監修 森脇龍太郎 編著 増茂誠二 川岸久太郎 晴れ書房

2, EmergencyCare : e-Word 貫きたい志 救命道 [単著] メディカ出版 2014vol27No7 July

3, Jレスキュー：救命教育のICT活用と人間教育 [単著] イカラス出版 2014 vol72 Novembar

4, 平成23年度厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究 病院前救護における小児院外心停止症例に対する除細動に関する研究 A. 研究 AEDを含めた包括的研究 清水直樹 1)増茂誠二 4)

2025年度 法政大学大学院（様式3）

5, 剣道中の心肺停止発生状況と緊急時安全対策のあり方

Analysis of Cardiopulmonary Arrest in Kendo

国士館防災・救急救助総合研究所 = Journal of disaster management and emergency medical system, Kokushikan University (5), 27-34, 2019-10

6, The Basic Life Support Education For The Elementary School Pupil

[共著] ACEM 2013 The 7th Asian Conference on Emergency Medicine

国際学会 アジア救急医学会東京国際フォーラム

7, The Effectiveness of School CPR Trainer Provided By Elderly People

[共著] EMS ASIA 2016 The 4th Asian EMS Conference The-K Hotel Seoul Korea

国際学会 アジア救急医学会 韓国

8, 小中学校養護教諭の BLS 技能向上に向けた指導資料などの開発と研修のための 基礎研究[共著] 平成 27 年度科学研究費助成事業(科学 研究費補助金)(奨励研究)

9, ビジュアル教材「救急救命は最初の対応がとても大切」「急に人が倒れた!どうしたんだろう」[共著] 月刊「心とからだの健康」健学社第 24 卷 第 10 号

10, 救急救命指導者メソッド 平成 26 年

[共著] 第 22 回日本養護教諭教育学会学術集会抄録

11, 小学生を対象にした BLS 教育の効果の検証

[共著] 日本救急医学会雑誌 24 卷 8 号

11, 中学生における心肺蘇生法教育実施後の知識の長期定着についての検討

[共著] 日本臨床救急医学会雑誌

12, 小学生における心肺蘇生法教育のあり方 [共著] 日本臨床救急医学会雑誌 12(2) 1